

# 山大病院だより

3<sup>2016</sup>月号  
vol.227



レポート メディカルスタッフ連絡会議 海外研修報告



山/大/病/院  
**NEWS** Part 1

## 医学部医学科で 白衣着衣式を挙行了しました

1月29日(金)、医学部医学科白衣着衣式を挙行了しました。この式典は、平成19年度から毎年、本学医学部医学科同窓会である霜仁会(そうじんかい)から、臨床実習に臨む学生に白衣が贈られ、これから始まる臨床実習の前に医学生としての決意と自覚を確認するものです。

着衣に先立ち、山下医学科長から訓辞及び、Student Doctor(医学実習生)認定証(全国医学部長病院長会議認定)が学生に授与されました。その後、福本霜仁会会長から祝辞があり、4年生120名へ白衣が授与され、一斉に白衣を身に付けました。

白衣着衣の後、島村亮助学生代表から「白衣を頂いたこの瞬間の初心を忘れず、常に謙虚な姿勢で、患者さんに寄り添った医療を実現すると共に、探究心と向上心を持ち、実習を通して専門的知識、そして技術を身につけていくことを誓います」と謝辞並びに宣誓がありました。続いて、田口病院長から期待を込めた挨拶があり、学生全員が医学生としての決意と自覚を新たに白衣着衣式を終了しました。

大学病院は、診療・教育・研究を一体として、最良の医療を提供することを使命としています。特に、医療を担う人材の育成は最も重要であり、将来の医療を発展・向上させるため、医学生・看護学生などの臨床教育にご協力をお願いいたします。



### 退任のご挨拶

山口大学大学院 医学系研究科  
情報解析医学系学域 皮膚科学分野 教授

## 武藤 正彦

ました。本院における褥瘡発生率の低さは、国立立大病院の中でも常に上位にランクされていることは誇りに思っています。最後にになりましたが、伝統ある山口大学医学部附属病院の更なる発展を祈念しつつ、退職のご挨拶といたします。本日に長い間ありがとうございました。



### 退任のご挨拶

山口大学大学院 医学系研究科  
保健学系学域 病態検査学分野 教授

## 市原 清志

3月末日をもって山口大学医学部附属病院を退職いたします。平成元年7月に、前任地である九州大学生体防御医学研究所附属病院より当院に転任し、以来27年間の長きに渡りお世話になりました。これまでの皆様方の御厚情に深く感謝いたします。平成9年9月より皮膚科教授を拝命し、山口県内の皮膚科診療の拠点となるべく、私なりに努力してまいりました。皮膚科の中に形成外科診療班を立ち上げ、形を造る形成外科医の育成にあたったこともその一環です。松崎および岡両病院長の下では副病院長の役割をいただき、医療安全に係る院内外の業務に加えて、若手の医師確保および医療人の資質向上のための医療人育成センターの設立に奔走し、少しずつその効果が数字として現れてきていることを頼もしく思っています。「患者の立場になって物事を視ることができ」「これこそが、医師と患者およびその家族との良好な関係を構築する鉄則であることを医療安全の業務を通して改めて学びとった次第です。平成22年12月2〜3日に実施された厚生労働省による特定共同指導は思い出として今でも脳裏に焼きついています。病院長室で同省医療指導監査室長より直接指導を受けた時は、まるで小学校で宿題をすることを忘れて職員室に呼び出され、担任教師から叱られる小学生のような心境でした。指導後の自主返還作業も、医事課職員の皆様には夜遅くまで作業をしていただき、大変お世話になりました。担当部署のリーダーたる者、日頃からしっかりと業務の適正管理に努めるよう心得ておく必要性を学び

私は、過去14年間保健学科で教育研究を担当させていただきましたが、今年3月で定年退職いたします。振り返りますと、1975年本学医学部を卒業後、出身地に戻り大阪大学大学院臨床検査診断学に入学しました。以降16年間、免疫測定法の開発に関与しつつ、内科医として甲狀腺専門外来の診療に携わりました。大阪大学は医学研究が盛んで、多数の研究者との交流を通して統計学の重要性と現場のニーズを知り、独学でしたが統計学を学びました。当時は適当なソフトウェアがなく、間違えた統計処理が多いことに憂慮し、データの視覚化機能を備えた統計ソフトStatEzを4年間かけて1990年に完成させました。

その後1992年に、川崎医科大学臨床検査診断学の助教授として赴任しました。目標は、臨床検査が病気以外で変化する要因の体系的な解明と、検査診断で参照できる知識ベースの構築でした。当時、山口大学から移籍された柴田進学長の臨床研究への卓越したお考えで、病歴室に申請すれば入院カルテを自由に閲

## 平成27年度 定年退職者の皆さま

覧できました。おかげで、42疾患2355症例の臨床検査所見を詳細に記録して検査診断支援システムを構築、そのエビデンスを検査診断学の教科書に纏めました。

2002年、短期大学から4年制に移行した直後の本学保健学科に赴任しました。4年後には大学院大学となり、研究力の向上が重要な課題でした。幸い、学内外で多種多様な臨床研究に関与する機会を与えられ、沢山の研究成果を得ました。特に2004年以降国際臨床化学会の標準化活動に深く関わり、2009年にアジア地域の大規模な基準値の調査、2011年からは世界規模の基準値比較調査を担当しています。その際は、本学からも多数の皆様が血液を、ご提供いただきました。その際の検査データは、臨床検査分野の3学会が2013年に企画した、日本の共用基準範囲設定プロジェクトで生かされています。山大病院でも今年4月からその基準範囲が採用されること聞き嬉しく思っています。

さて、退職後ですが、進行中の研究がいくつかあり、研究専属の特命教授としてしばらくの間、研究を続けさせていただきます。今後もお世話になると存じますが、どうか引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。末筆ながら山口大学の二層のご発展をお祈りしております。



### 退任のご挨拶

山口大学医学部附属病院  
薬剤部 准教授

## 尾家 重治

皆様には長い間大変お世話になり、ありがとうございました。

小生は薬剤師の仕事に加えて衛生関係の仕事がしたくて当院に入職しましたが、当時の薬



### 退任のご挨拶

山口大学医学部附属病院  
検査部 主任臨床検査技師

## 江角 智子

剤部には微生物を扱える場所がありませんでした。そこで入って3年目ぐらいに、微生物を扱える部屋が欲しいと上司に相談したところ、すぐに行き止まりの廊下を実験室に改装してくれました。それから37年にわたり薬剤師の仕事だけでなく衛生関連の仕事をする事ができました。病棟や感染制御部などからの環境器材・医薬品の微生物汚染調査依頼は500件を超え、そのうち16件で微生物汚染が感染の原因になっていたことがわかりました。小生が行ってきたことが患者様の役に立ち、嬉しく思った瞬間でした。また、40本ほどの感染関連の看護研究の手伝いをさせていただき、看護現場の問題点などを改善する手助けができました。

院内の皆様には色々教えて頂き、深くお礼を申し上げます。また、皆様のご健康とご活躍の院のますますのご発展をお祈りしています。

本年3月を持ちまして定年退職いたします。私は、昭和52年山口大学医学部附属臨床検査技師学校を卒業し、県内の一般病院に就職しましたが、大学病院に就職した同級生の「大学病院へ戻って来ないか」の三言に誘われ、昭和56年山口大学医学部附属病院へ就職しました。以来、35年間働かせていただき、これまで支えて下さった沢山の皆様方のご厚情に感謝いたします。

就職して最初は検体検査部門に配属されました。システム化がどんどん進み当直検査も開始された中、平成5年には検査部に初めて大型搬送システムが導入されることとなり、その機種選定や試薬選定に仲間とともに遅くまで取



# 本当にありがとうございました。

り組んだのは、懐かしい思い出です。その後、生理検査部門に配属され、平成13年には臨床検査技師として初めて腹部超音波検査に携わることとなり、早く一人前になれるよう、いろいろな研修会に参加し、超音波検査士の資格を取得しました。まさに、40の手習いといったところだったでしょうか。その後再び、主任として検体検査部門に配属され、平成26年3度目の大型搬送システムの入れ替えのため、再び皆で機種選定や試薬選定を行い、若者パワーに圧倒されながら現在の検体検査部門の形が完成。今後は、新規項目の採用や更なる効率化、迅速化を後輩たちに託したいと思います。

そして、検査部での思い出もたくさんあるのですが、私にとって最も忘れられない事は、平成24年に山口大学医学部附属病院地域医療教育研修センターの愛称公募の際に「白翔館(舎)」という名前を採用していただき、3月の竣工記念式典にも出席させて頂いたことです。採用の連絡をいただいた時には、「まさか」という思いの後にじわじわと喜びがわいてきました。長きにわたり山口大学とともに歩んできた中、本当に良い記念となりありがとうございました。最後に、附属病院の益々のご発展と皆様方のご活躍とご健勝をお祈りし、退職のご挨拶いたします。



## 退任のご挨拶

山口大学医学部附属病院  
第2病棟2・3階 看護師長

兵頭紀代美

3月末日をもって、山口大学医学部附属病院

を定年退職いたします。

39年間、医学部附属病院で仕事をさせていただき、大過なく無事勤めを終えることが出来ますのもひとえに皆様のおかげと深く感謝いたしております。

昭和49年4月山口大学医学部附属看護学校に入学し、卒業と同時に当院に就職しました。希望した第2内科がはじめて配属となつた部署でそれから、内科系外科系・ICU・NICU・精神科神経科等、10部署を経験しました。

看護師としての思い出は、希望に燃えていた新人の頃急変した患者さんへの救命処置と付き添っておられた家族への配慮を先輩看護師から優しく厳しく教えられたことや、結婚や出産を経験し、仕事の継続を断念しようと思った時期に、看護の楽しさ、難しさが私の3人の子育てと共に仕事への深まりとして増していくと上司から励まされたこと。そして管理者として、泌尿器科での患者さんのための療法相談外来を発足したことが思い出されます。当時、2交代勤務体制を導入し、ロボット手術も始まる準備をしていた頃でしたが、増加する腎不全患者さんに、病棟看護師による療法説明(腹膜透析・血液透析移植)を入院前外来で行うことになりました。医師をはじめ多職種の方々の協力も得て、少しずつ軌道にのり入院された患者さんから感謝の言葉を頂く度に、この時に参加して立て立ちあがった看護師の力を誇らしく思い、管理者としての幸せも感じさせて頂きました。精神科神経科での仕事が最後になりましたが、どの時期においても患者さんをはじめ多くの人に助けられました。本当に看護師として幸せな人生だったと思います。やり残した課題もありますが、引き継いでくれる優秀な後輩達のチーム力できっと前へ進むことができると信じております。

最後に、これから新病棟も建ち新しく変わっ

ていく附属病院の益々のご発展と皆様のご活躍を心よりお祈り申し上げます。



## 退任のご挨拶

山口大学医学部附属病院  
第1病棟9階東 副看護師長

藤井晴枝

この度、無事に定年退職を迎える事が出来た事は、支えてくれた家族はもちろんですが、今までの周囲の方々の温かい励ましと同僚、諸先輩方のご支援・御指導によるものと感謝しております。人の命を預かる仕事として、日々の看護の中で一生懸命にやってきた私にとって、患者さんの温かい声かけや笑顔そして回復時の感動は、かけがえのないものとして深く心に刻まれています。

30数年前、私が就職した当時は、現在のベッド数に対し、看護師は360数名と現在の半数で、4週6休制の勤務体制は厳しく大変でしたが、現在は、診療報酬改定に伴い7対1の看護体制で、看護師も2倍となり他職種も多く増員され、より質の高い看護や医療が提供されています。また、現在の高度救命救急センターの前進であるHCU・CCU・無菌室が平成5年に開設された当時に一緒に頑張った後輩たちも、20数年経った今も各部署で活躍されており、現在救命センターで頑張っている後輩たちも、ドクターヘリと共に県内外地域の中核となる救命にあたり活躍している姿を見ると、とてもうれしく思います。このような中で定年まで勤務できた事に誇りを感じるとともに、周囲の方々のおかげと改めて本当に感謝しております。

平成30年には新病棟も設立され、医療の多様化する中で、より厳しくなるかと思いますが、多職種の方々と連携協働し、山大本看護部の目指す温かい看護や安全な医療が提供される事を願っております。最後に、皆様様の益々の御活躍、大学病院の更なる発展を願ひましてお礼の挨拶とさせていただきます。



## 退任のご挨拶

山口大学医学部附属病院  
外来棟 看護師

小林美代子

この3月をもちまして定年退職致します。38年間、長きにわたり皆様のごささへなくしては勤め上げることができなかつたと思います。本当に皆様様に深く感謝致しております。

初めの配属先の第1外科で新人時代を過ごし、何もできない私に看護師として社会人としてのノウハウを教えてくださいました。次の配属先の放射線科では緩和ケアに目覚め、大学病院で緩和病棟がでできないものか悩み、私の看護観がしっかりみてきた時でした。その後の外来棟から検査診療部、および新ライナック治療室の立ち上げにも関わりました。ここでも緩和ケアで学んだことを活かすことができ、院内痛認定看護師として活動させて頂きました。平成25年には文部科学省医学教育関係業務功労賞もいただきました。すべては皆様のご指導のおかげと感謝しております。誠にありがとうございました。

これからも新病棟へと飛躍していく山口大学附属病院を見守りつつ、もう少し当院でお世話になろうと思っておりますので今後とも宜しくお願い致します。



サレーメモリアルホスピタルにて

# REPORT

## メディカルスタッフ 連絡会議

# 海外研修 に参加しました!!

### City of Vancouver

in British Columbia, Canada

11月8日～15日にかけて、メディカルスタッフ連絡会議海外研修(以下海外研修)を行いました。

この海外研修は、医療の国際化に対して意識を高めること、海外の施設のシステムを学ぶこと、部署横断的な繋がりを強化し、将来病院のリーダーになる人を育てること等を目的とし、毎年1回実施されています。

本年度はカナダブリティッシュコロンビア州(以下BC州)のバンクーバーにおいて行われ、看護師や薬剤師をはじめとする医師以外のメディカルスタッフ職員と事務職員の多様な職種で構成された14名が参加しました。バンクーバーが移民の町で日本人・日系人が多いことなどから、非常に親しみのある研修となりました。

カナダの医療制度の講義を受講した上で、各訪問施設にて研修を行いました。

### 1. 訪問施設紹介 日系ホーム



55歳以上の日系シニアのための近代的アパートメントで、現在67歳から106歳までの64名が入居しています。入居者はフレ

### 2. サレーメモリアルホスピタル



病床数が720床とBC州で2番目に大きな病院であり、救急病院としてはカナダで2番目の大きさです。また、BC州で小児救急医療を行っている二つの病院のうち一つです。職員数は4000人で、年間外来患者数・13万2千人です。また、この病

院において山口大学医学部附属病院のプレゼンテーションを行いました。  
センターシジョンを行いました。  
視察部署・薬剤部、リハビリテーション部、神経科病棟、救急外来、スキルアップセンター等  
1.ザー保健局により決定され、月収の65%が入居費用となっています。また、24時間体制で准看護師と介護士が勤務しています。入居者が自由に参加できる体操や料理、ボウリング大会等のアクティビティが実施され、入居者同士のコミュニケーションが豊富であると感じました。訪問時には入居者との談話の場を設けていただき、カナダにいながら日本を身近に感じることができました。  
視察場所：アクティビティルーム、居室(ワンベッドルーム)、風呂等

### 3. JPOCCSC



正式名称は Jim Pattison Outpatient Care and Surgery Centreであり Jim Pattison氏の寄付により設置されました。日帰り手術・検査専門の病院であり、入院は一切ありません。家庭医とサレーメモリアルホスピタルを繋ぐ受け皿として、患者さんの退院をスムーズにする機能を担っています。建物全体が木をイメージしており、6手術室、10治療室、110検査室が整備されています。また、インド系の人数が多いことから、ヒンドゥー語による表示も充実していました。  
視察部署：放射線部、検査部、医療機器管理室等







#### 4. セントポール病院



プロミデンスヘルスケア傘下にある3つの病院のひとつで、レベル3のトラウマセンター（外傷センター）でもあります。150年前にできた歴史ある病院で、年間予算8億4千万ドル、職員7000人、入院患者数20万人、外来患者数26万人と大規

模の病院でもあります。プリティッシュニコロニア大学と医師の育成や研究の分野等で提携していることが特徴的です。現在は紙カルテが主であり、電子カルテへ移行している過渡期だそうです。視察部署…一般病棟、心臓センター、NICU、ICU、救急外来等

#### 5. コツテージホスピス



対象患者は余命3ヶ月以内とされており、末期がん患者だけでなく、心臓疾患や認知症、もう一つのメイズホスピスでは、精神疾患や薬物依存症の方も受け入れていきます。入居を日系ホームと同様にフレージャー保健局が管理していますが、人口に比べて不足していること、国からの補助が減って、ボランティアの協力が重要になることが今後の課題だそうです。視察場所…アクティビティルーム、事務室、ナースステーション等

#### 【カナダと日本】



カナダと日本の医療制度の共通点は、国民皆保険であるという点です。ただし、日本では3割が個人負担であるのに対し、カナダでは個人負担が無いことが大きく異なります。その他異なる点として、カナダの医師は家庭医と専門医に分けられており、家庭医の紹介がないと専門医による診療が受けられません。さらに医師は病院で雇われておらず、個人が診療報酬を請求し、かつ3ヶ月で請求できる金額が決まっているため、一人の医師が診療することができない患者数が決まっているようです。そのため、家庭医より専門医を目指す医師が多く、家庭医が減少していることにより患者の待ち時間が長くなり、場合によっては何ヶ月も待たされることがあるそうです。しかし、カナダ国民にとって、医療は全国民が等しく享受すべき「権利」で、緊急性の低い医療は長く待たされるという考え方が浸透しているそうです。

日本に比べてカナダの方が職種が細分化されており、各々の専門性を生かして働いている印象を受けました。特に看護師についてはナースプラクティショナーなどの特定の役割を担う者もあり、権限も強く与えられているようでした。また、様々な職種によるチームカンファを行う姿も院内の至る所で見られ、我々が行っているチーム医療の姿と重なりました。一方で、日本の方が優れていると思われる

ことも多くありました。特に、電子カルテが廊下に設置されていたり、医療材料が患者さんの手に届く範囲に多数配置していたりするなど、個人情報保護や医療安全などは日本の方が遵守されていると感じました。

#### 【終わりに】

今後、医療の国際化に対応していくためには、このような日本と外国の医療の違いを学ぶことが必要であると感じました。本研修においては、様々な職種のメンバーで日本と外国の医療の違いを学ぶ機会をいたたくとともに、カナダという今まで訪れたことのない地でお互いが助け合うことにより研修を無事終えることができました。この貴重な経験により、私たちが山口大学医学部附属病院で働いていく上での横の繋がりを作ることができました。これから仕事でトラブルがあったり、解決が困難であったりしたときには、きっとこの繋がりが生かされる時が来るはずですよ。

もしこの記事を読まれて興味を持たれた職員の方がおられましたら、是非来年度以降の海外研修に応募してみたいかがでしようか。きっと素晴らしい経験が出来ると思います。

平成27年度メデイカルスタッフ連絡会議 海外研修参加者同





病棟リレー

各病棟を紹介します！

# 先進救急医療センター

山口大学医学部附属病院「先進救急医療センター(Advanced Medical Emergency and Critical Care Center)」は、1999年4月に国立大学医学部附属病院では初めて、高度救命救急センターとして設置され、救命センター集中治療室(ICU)10床、

重症病床(HCU)10床を有しています。365日24時間体制で、年間1200例を超える重症救急患者を受け入れていきます。心血管疾患、脳神経疾患が多く、院外心停止・呼吸不全・重症感染症・外傷などの重症疾患を中心に、スタッフが丸となつて高度な医療を全人的かつ安全に提供しています。

始業前、全員で「指差し呼称よし!」



2003年8月より宇部市消防本部と連携したドクターカーシステムが開始となり、ドクターカーに医師、看護師が同乗して現場に行っています。また、2011年1月にはドクターヘリの運用が開始となり、現在先進救急医療センターは、ICU、HCU、救急外来、プレホスピタルの4本柱で医療を提供しています。スタッフの内訳は、医師14人、看護師59人(看護師長1人、副看護師長4人、認定看護師3人、専門看護師2人)、看護助手2人、クラーク1人です。その他、病棟薬剤師、臨床工学技士、各診療科の医師で治療にあたっています。それぞれが自分たちの得意分野を発揮し、力を合わせて先進の医療を提供しており、AMEC<sup>3</sup>スタッフのチームワーク力は最高です。

## ICU・HCU・救急外来・プレホスピタルの4本柱で医療を提供

### 集中治療室(ICU)

人工呼吸器、補助循環装置(PCPS、IABP)、体外濾過透析(CHDF、PMX)、低体温療法など最新の機器を使用して、最善の治療を提供しています。そのため様々なモニターで厳密な管理を行っており、看護師は、新しい治療や看護について常に学習を行い、質の高い医療や看護を目指しています。

### 救急外来(初療室)

主に3次救急患者の受け入れを行います。基本的に救急医2名、看護師2名、当該科医師で担当し、高度な救命処置に対応できるよう多くの器材を準備しています。

### 重症病床(HCU)

急性期後の患者の治療・看護を行っています。人工呼吸器を装着している患者も多いため、一般病棟へいく前段階として、リハビリなどを積極的に行っています。

### プレホスピタル(病院前救護)

AMEC<sup>3</sup>の医師・看護師が、救急車やドクヘリに同乗し現場に出動します。現場から救命処置を開始し治療を継続しながら病院へ搬送します。このシステムは、出来るだけ早期から治療を開始することで救命率の向上を目指すものです。



初療室



救急カンファレンス

宇多川師長  
からの一言

「まだ救える命がある」の信念のもと、高いところぞしのスタッフを心から誇りに思っています。3月末で定年退職を迎えますが、すべての皆様に感謝とお礼を申し上げます。

救命救急の現場は、刻秒を争い、バイタルや症状のわずかな変化を見逃すことはできません。そのため、幅広い技術と知識が必要となります。また、どんな時も冷静に対処し、正しい判断力や行動力、それに多くの職種と連携をとるために高いコミュニケーション能力も必要です。緊張度の高い職場ではありますが、スタッフ全員、やりがいを持って日々頑張っています。





## もうすぐ、ひな祭り

3月3日はひな祭り。

ひな祭りの飲み物といえば白酒や甘酒ですね。

白酒には長寿を祝い、厄除けの効果があるとされています。

甘酒は、アルコールが入った白酒を飲むことができない  
子どもの飲物として、ひな祭りに飲まれるようになりました。

ひな祭りは手作りの甘酒で

お祝いしてみたいかかでしょうか？

### 麴の効能

昔から慣れ親しんでいる食品、調味料の多くに「麴」  
が関わり、その効能が注目されています。

麴には多くの酵素が含まれ、消化を助けるまたは吸  
収を良くする働きがあります。

また麴の酵素によってできる「オリゴ糖」、麴そのもの  
に含まれる「食物繊維」も腸内環境を整えるのに役立  
つので、便秘でお悩みの方にもお勧めです。

さらに麴菌が繁殖する段階でVB1、B2、B6、パントテ  
ン酸、ビオチンなどのビタミンを作り出すため疲労回  
復にも効果があります(スーパーで麴は売られていま  
す)。

この「麴」を利用したのがこの「甘酒」です。ぜひお試  
しください。

出典：小泉武夫著「絵でわかる麴のみみつ」より

Today's  
menu

## 甘酒

### 材料 作りやすい分量

●米麴	300g
●ごはん	300g
●水	900g

※麴と米は同量。水はその3倍。

※ごはんは冷ご飯でも可。

栄養成分(100g当たり) エネルギー69kcal

### 作り方

- 1 保温ポット(1~1.5ℓ用)に熱湯を入れ温めておく。
- 2 鍋にごはんと水を入れ中火にかけ、沸騰したら弱  
火にして30分くらい炊く。途中、焦げそうになっ  
たらかき混ぜる。
- 3 粥ができたら60℃になるまで冷ます(目安は指を  
入れてみて長く入れていられないくらいの状態)。  
※麴菌は60℃以上になると死滅してしまうので注  
意。
- 4 冷ました粥に、ほぐした麴を加えてヘラで手早く混  
ぜる。
- 5 ポットの湯を捨て、4の粥を移し、蓋をして10~  
15時間置くと出来上がり。  
粗熱を取った後は10℃以下で保存する。
- 6 甘酒と水を1:2で割り、鍋で温め、お好みでおろし  
生姜を加えて頂きます。

### アレンジレシピ

牛乳や豆乳、ヨーグルトやカルピスで割っても美味し  
く頂けます。

夏場は冷やして飲むのもお勧めです。



▲構造物の撤去・埋め戻し工事

山留め工事▶



再開発整備事業のコンセプトや新病棟の建物概要をパネルで紹介



再開発整備事業へのアクセス

山口大学 再開発

検索



再開発整備事業URL

<http://h-seibi.hosp.yamaguchi-u.ac.jp>

新病棟建設工事が着々と進んでいます。今後もしばらく地下工事が続くため進捗が分かりづらいですが、既存の基礎解体工事に始まり、地下を掘り進める際に周りが崩れてこないよう地面を固定する山留め工事、それに支障となる残置構造物の撤去・埋め戻し工事など、重要な工事が行われています。

また、工事用地は、利用者の安全確保のため、高さ3メートルのパネルで囲い込まれています。多くの方々の目に触れる外来入口側のパネルには、より皆さんに再開発整備事業のことを知っていただくため、1月中旬に、同事業のコンセプト及び新病棟の建物概要を掲載しました。ご通行の際は是非ご覧ください。

### 編集後記

表紙は白衣着衣式で真新しい白衣を身にまとい、決意を新たに医師として一歩踏み出す瞬間の1枚で飾ってみました。特集では、今年度定年退職される方々にご挨拶をいただきました。長い間本当にありがとうございました。春は出会いと別れの季節ですね。新たなスタートをきる皆さまに幸せがたくさん訪れますように(^\_^)

皆さんからのご意見・ご感想をお待ちしております。  
今後読んでみたいテーマ、興味のある記事などお気軽にお寄せください。  
FAX 0836-22-2113 E-mail me202@yamaguchi-u.ac.jp

企画発行：山大病院だより編集委員会  
事務担当：山口大学医学部総務課総務係  
〒755-8505 山口県宇部市南小串一丁目1番1号  
TEL 0836-22-2007 URL <http://www.hosp.yamaguchi-u.ac.jp>

